令和７年７月４日
教育課程企画特別部会
参考資料２－２

質の高い幼児教育から質の高い小学校教育への接続へ向けて

京都教育大学　古賀松香

課題：自発的な活動としての遊びが
すべての幼児教育施設において実現し，
充実するにはどのような方策が必要か

1.幼児教育における学びのプロセスの理論的整理と理解の浸透

- 多種多様な施設形態と実践の様態がある⇒指導体制が地域によって，施設形態・運営主体によってまちまち
- 環境を通して行う教育，自発的な活動としての遊びを中心とした指導の理解と実践への浸透
- 幼児期の教育における見方・考え方の浸透
- 資質・能力，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の浸透

幼児期の教育における見方・考え方

幼稚園教育要領 第1章 総則 第1節 幼稚園教育の基本（冒頭部分）

「幼児期の教育は，生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり，幼稚園教育は，学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため，幼児期の特性を踏まえ，環境を通して行うものであることを基本とする。

　このため教師は，幼児との信頼関係を十分に築き，**幼児が身近な環境に主体的に関わり，環境との関わり方や意味に気付き，これらを取り込もうとして，試行錯誤したり，考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方**を生かし，幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。」

自発的な遊びを通して，幼児期の教育における見方・考え方を身につける

前回改訂内容について理解を深め，
実践に浸透させる必要があるのでは

幼児期の特性を踏まえ，
環境を通して行う教育

自発的な活動としての
遊びを通して指導する
ことを中心とする

幼児は遊びを通して
幼児期の教育における
見方・考え方を身につける

だんごむしをかわいがっていた4歳児クラスに飛び込んできた
だんごむしが大量発生してお花が育たないという事件。
花壇のだんごむしを保護し，育てるプロジェクトが立ち上がる。

こちらはだんごむしを育てている方のケース

試したことを視覚化する教師の工夫

子どもが自分で書き足したものも

ある日の子どもの実験
今日の『だいにんき』は？

一日の振り返りで新たなアイデアが生まれ，共有され，活かされる

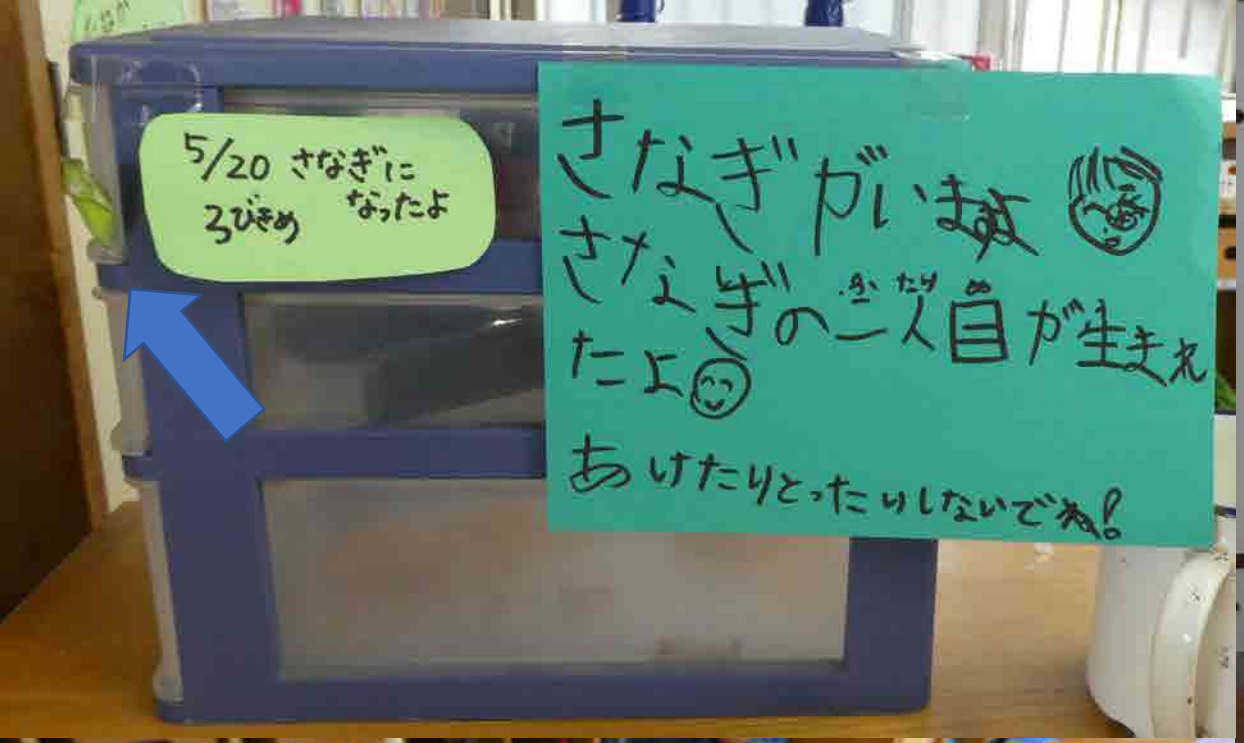
話し合った内容を
明日の朝までのしかけに活かす

自分たちが推測したこととだんごむしの生態は一致しているか
「じっけんけっか」が知りたい　明日園に来ることが楽しみに

5歳になっても
関心は広がり深まるように

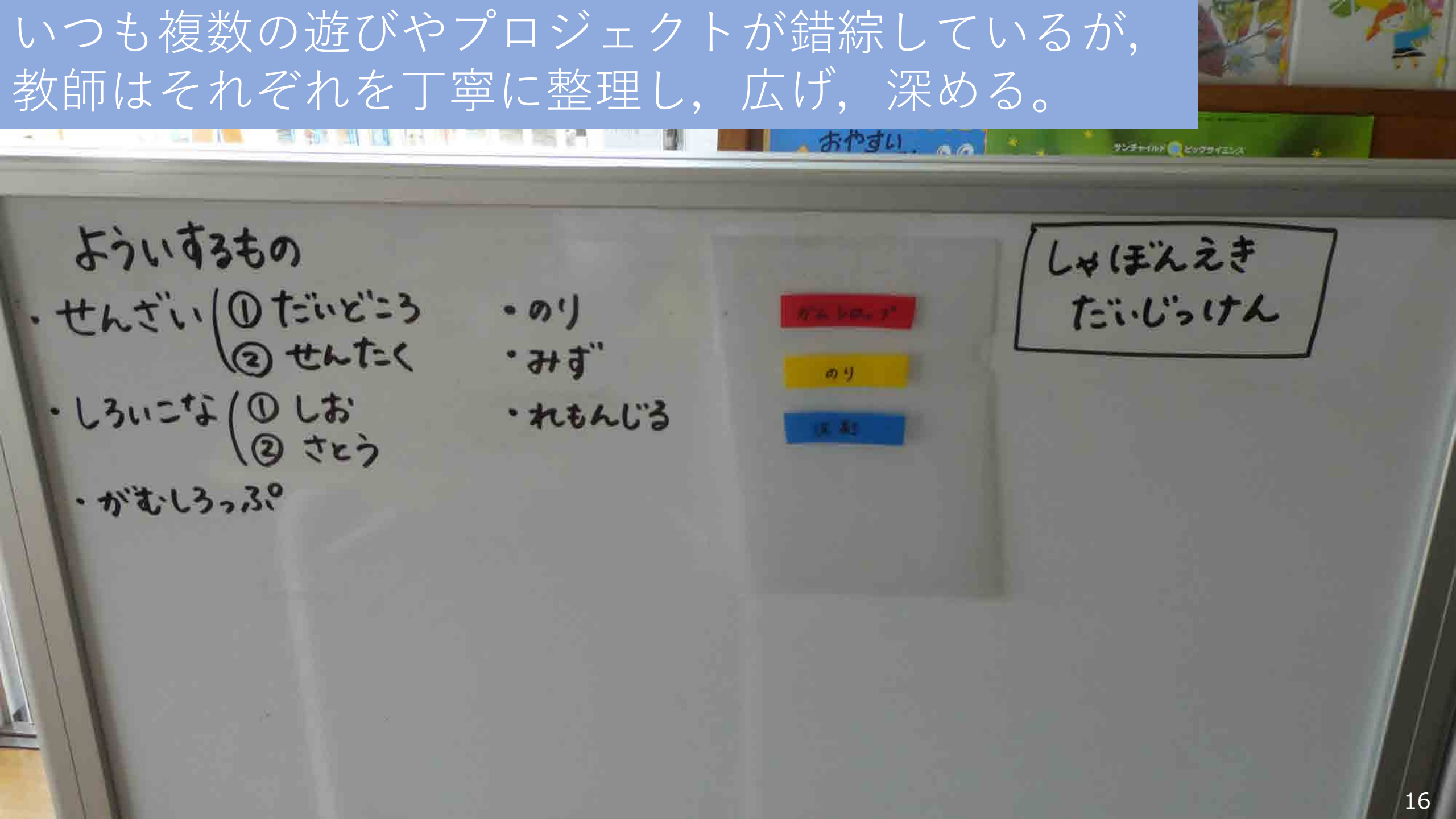
白いケースに入れることで
幼児でも見やすくなる

あえて飼育ケースにふたをしないことで、
虫の生態に一層触れる展開を生む



いろいろなところでさなぎになることを知り，心が動く子どもたち。命を大切にするために自分たちがどうあるべきかを考えることにつながっていく。

いつも複数の遊びやプロジェクトが錯綜しているが，
教師はそれぞれを丁寧に整理し，広げ，深める。

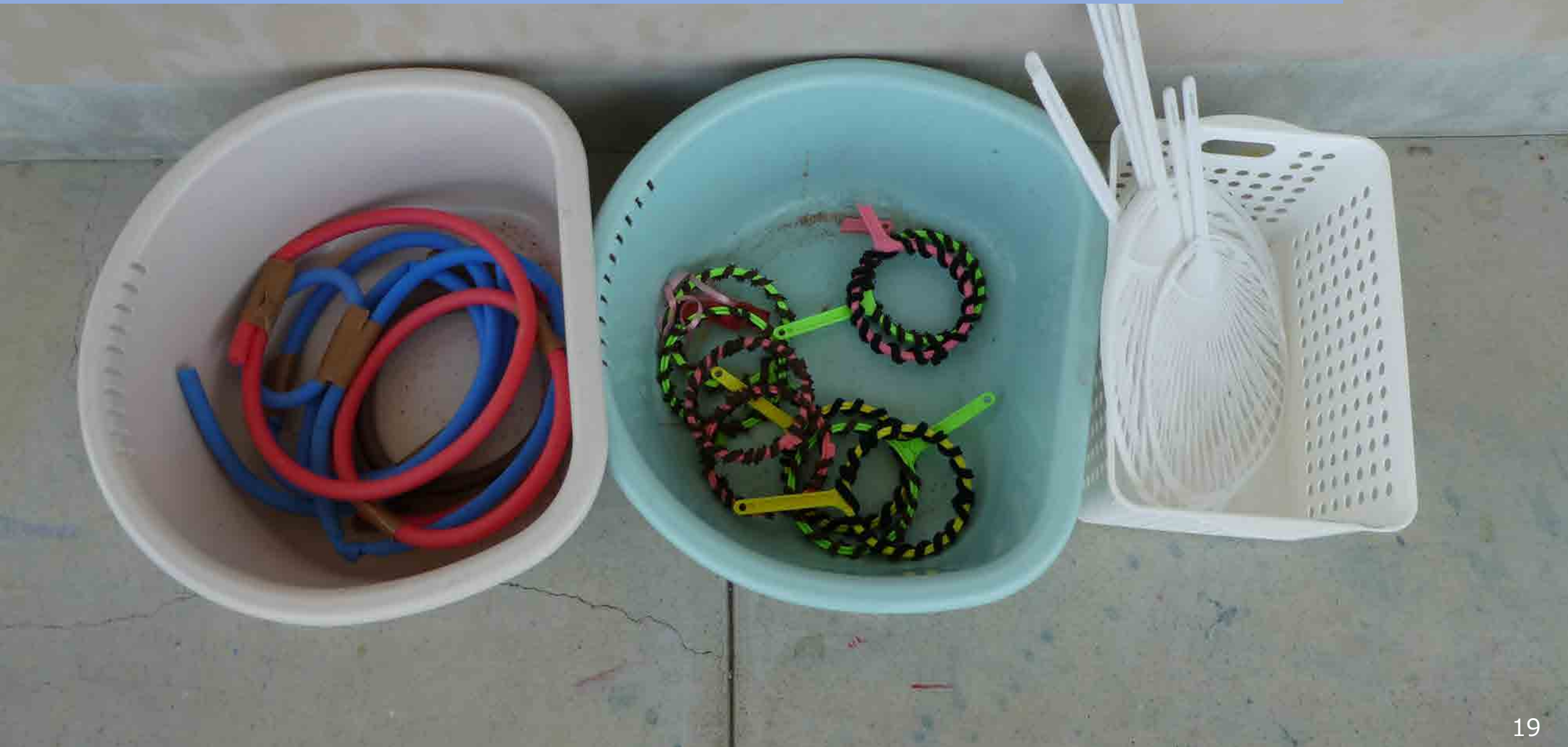


自由に使える物を考えて使うように

昨日までに取り組んだことの視覚化
グループでよりよいシャボン液を
つくり出そうとする

5/24
◎
2
5/24
◎→△
2
1
5/24
○◎△
5
2
5/24
X →◎
みずの量
2
6
○
X
○
X
○
○
○
○
○
○
○
○
○
X
○
○
○
○
○
○
○
○
○
X
○
○
○
○
○
○
○
○

物の特徴ごとに整理しておくことで
子どもがその特徴を使いこなし工夫を重ねる動きを生む



教師が用意していた環境を工夫して使い込んでいく。子どもたちはおもしろさを発見し，伝えていく。

＊忍者になったまま
しゃぼん液の製造に入った子たちも

シャボン液を作っては飛ばし，さらに工夫してシャボン液をつくる。そうしているうちに，レモン汁がなくなり，代わりに使えるものが園にないか考える。

いつもあおむしのえさにあげていたみかんの木を思い出す。
レモン汁とみかん汁は同じ働きをするのではないかと推測して試してみる。

園生活にある内容が総合的に様々な遊びに活かされていく

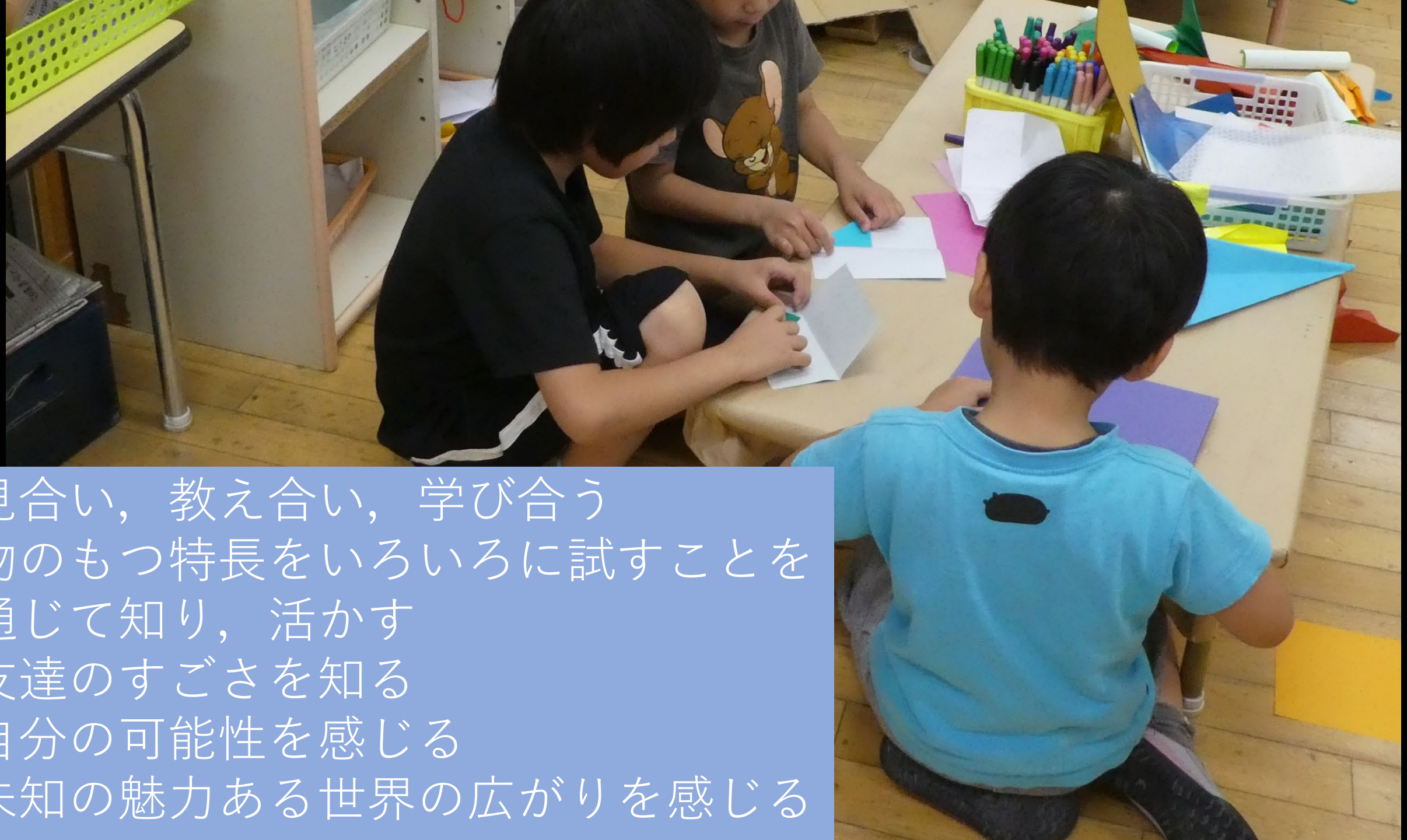
どうなるかな？におい，感触を感じつつ，
子どもも大人もわくわく心も身体も動く。

ちっちゃい
ひこうき
ほそくなった
ひこうき
デカキン

探究を支える環境構成

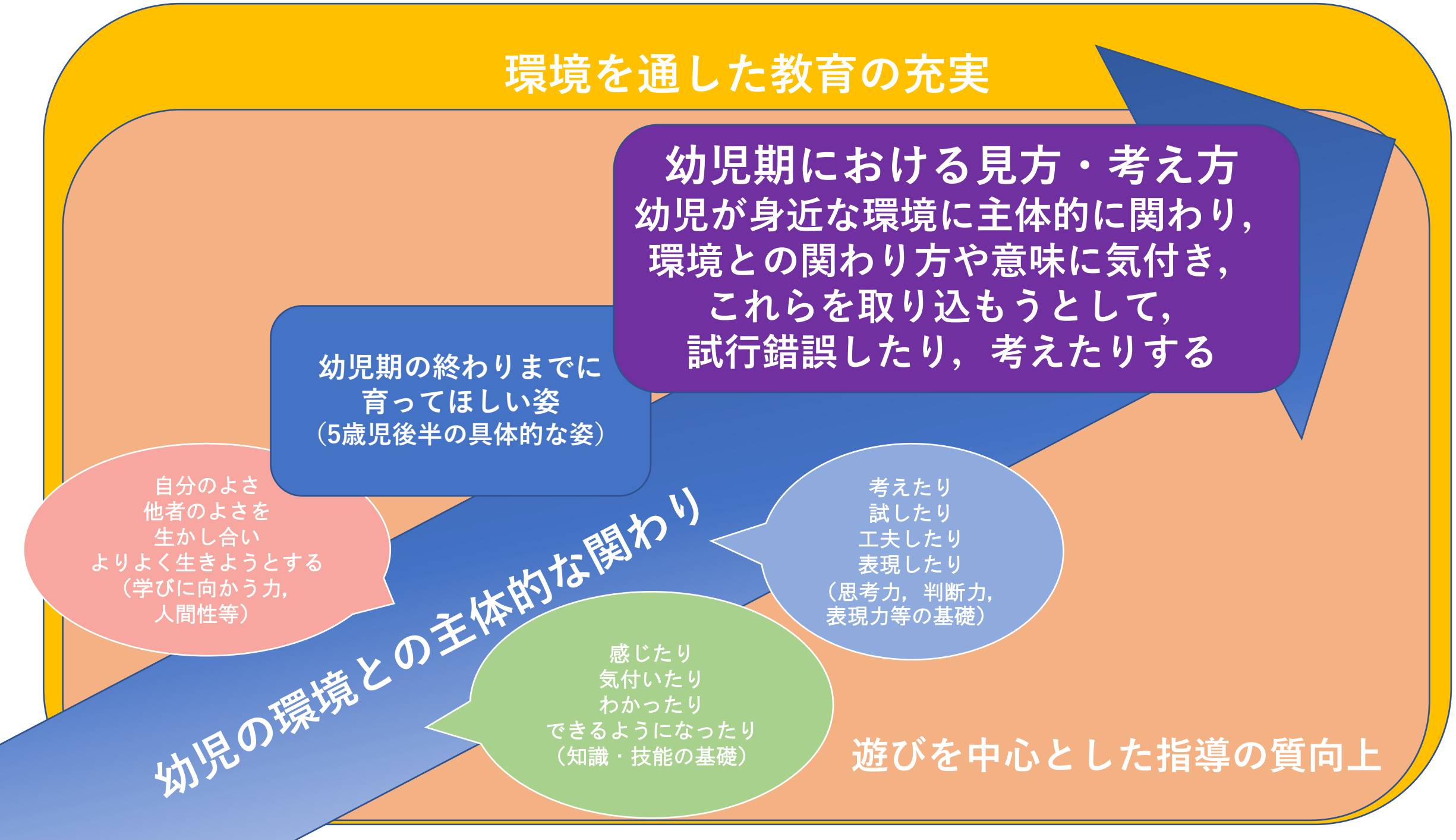
0.25倍速の動画で
新しい折り方に挑戦する

何度も飛ばし，友達の紙ひこうきの材質，大きさ，折り方，飛び方，飛ばし方を見て，自分のものと比べ，もっと〇〇な風に飛ぶようにするには？と考え，思考錯誤し，工夫し続ける



見合い，教え合い，学び合う
物のもつ特長をいろいろに試すことを
通じて知り，活かす
友達のすごさを知る
自分の可能性を感じる
未知の魅力ある世界の広がりを感じる

紙の大きさ，厚さを変えて試す
いくつも重ねて飛ばして試す
さっき教わった折り方を
先生に教えてあげられる自分
見方・考え方が育ち，子どもが育つ


環境を通した教育の充実
幼児期における見方・考え方
幼児が身近な環境に主体的に関わり，
環境との関わり方や意味に気付き，
これらを取り込もうとして，
試行錯誤したり，考えたりする
幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿
（5歳児後半の具体的な姿）
自分のよさ
他者のよさを
生かし合い
よりよく生きようとする
（学びに向かう力，
人間性等）
考えたり
試したり
工夫したり
表現したり
（思考力，判断力，
表現力等の基礎）
感じたり
気付いたり
わかったり
できるようになったり
（知識・技能の基礎）
幼児の環境との主体的な関わり
遊びを中心とした指導の質向上

2.幼児教育センターの全国的配置と指導性の確保・構造化

- 多種多様な施設形態と実践の様態がある…指導体制がまちまち
- 幼児教育の質の確保・向上のための体制に地域格差がある

⇒都道府県・幼児教育センターと市町村・幼児教育センターの全国的な配置・整備

⇒都道府県・幼児教育センターと市町村・幼児教育センターの積極的な連携と指導体制の構造化

⇒小規模自治体の連携体制の確保

⇒民間園にとっても魅力的な研修メニュー，幼児教育アドバイザーの配置

⇒都道府県・幼児教育センターと保育者養成校コンソーシアムとの連携構築，スーパーバイズの確保

3.「幼保小の架け橋プログラム」の推進による地域の教育実践の質向上

- 多種多様な施設形態と実践の様態がある…質の高い幼児教育の理解が幼保小間で不十分なまま留まる可能性

⇒幼保小間（小規模保育等も含む）で「子どもの主体的な遊びと学び」の実践交流を推進

⇒事前・事後研修の実施の徹底と架け橋期のコーディネーター，幼児教育アドバイザーの関与を推進

⇒国公立園の実践モデル的役割，実践研究の蓄積，公開保育等研修センター的役割，幼児教育センターとの連携体制を明確にする